

ごあいさつ

明治・大正期に日本銀行や東京駅などを設計し、日本近代建築の礎を築いた辰野金吾。2019 年は辰野金吾の没後 100 年にあたります。その節目の年に、日本銀行貨幣博物館では、辰野金吾に関する特別展を開催いたします。

辰野金吾 (1854－1919 年) は日本銀行本店の設計のため欧米を視察し、帰国後、工事監督として日本銀行本店本館 (重文) の建築を行いました。その後も日本銀行建築工事顧問として京都支店 (重文・現京都文化博物館) など各地の支店の建築を担いました。日本銀行の建築に関与した期間は 25 年におよび、辰野金吾の建築家人生の重要なパートを占めています。

辰野金吾がどのような歩みを経て日本銀行本店を設計するに至ったか、これまで知られていなかった資料と共にご紹介します。また日本銀行本店本館とその後に手がけた各地の日本銀行の建物を通して、辰野金吾の日本近代建築に果たした功績をたどります。

辰野金吾のあゆみ

西暦	和暦	年齢	主要事項	日本銀行関連事項
1854	嘉永 7	0	唐津藩の武士の次男として誕生	
1868	明治元	14	叔父の辰野宗安の養子となる	
1871	明治 4	17	耐恒寮にて曾禰達蔵と共に高橋是清に学ぶ	
1873	明治 6	19	工部省工学寮 (のち工部大学校) 第一期生として入学	
1877	明治10	23	コンドルの来日、工部大学校にて師事する	
1879	明治12	25	工部大学校を首席で卒業	
1880	明治13	26	官費留学生としてイギリスへ、バージェスに師事する	
1883	明治16	29	帰国	
1884	明治17	30	コンドルの後任として工部大学校教授 (のち東京帝国大学工科大学) に就任	
1885	明治18	31	竣工: 銀行集会所	
1886	明治19	32	辰野建築事務所開設	
1888	明治21	34	竣工: 渋沢栄一郎 竣工: 帝国大学工科大学	
1889	明治22	35		7月日本銀行本店設計者に決定 8月欧米へ調査出張 10月帰国
1890	明治23	36		9月新本店着工、日本銀行建築工事監督
1891	明治24	37		濃尾地震視察
1896	明治29	42		竣工: 日本銀行本店本館* 日本銀行附属建築工事監督 竣工: 日本銀行西部支店
1898	明治31	44	建築学会会長に就任 東京帝国大学工科大学学長に就任	
1899	明治32	45		日本銀行建築工事顧問 竣工: 日本銀行本店南分館
1902	明治35	48	東京帝国大学教授依願退官	
1903	明治36	49	辰野葛西建築事務所 (東京) 開設	竣工: 日本銀行大阪支店 (*)
1905	明治38	51	辰野片岡建築事務所 (大阪) 開設	竣工: 日本銀行広島出張所 竣工: 日本銀行名古屋支店 竣工: 日本銀行京都出張所*
1906	明治39	52		
1908	明治41	54		
1909	明治42	55	竣工: 奈良ホテル*、両国国技館	竣工: 日本銀行金沢出張所
1911	明治44	57		竣工: 日本銀行函館支店
1912	明治45	58		竣工: 日本銀行小樽支店* 日本銀行建築工事顧問解除
1913	大正 2	59		竣工: 日本銀行福島支店
1914	大正 3	60	竣工: 東京駅丸ノ内本屋 (中央停車場) *	
1919	大正 8	65	自宅にて逝去	



日本銀行アーカイブ蔵
1878年開拓使物産売捌所 (のち初代日本銀行本店) 設計着手 (実習として)

辰野金吾は本店本館にはじまり、25年間にわたり日本銀行建築に携わった。建築を学び始めてから大半の期間にあたる。



2度の海外渡航

辰野金吾は官費留学生としてイギリスへ留学した。帰国後、コンドルに替わり工部大学校教授となり、日本人として初めて建築学を教えた。その後日本銀行本店の設計の際にもアメリカ、そして再びイギリス等ヨーロッパの視察を行った。そこで見た欧米の建築技術は日本銀行建築だけでなく、その後の建築家辰野金吾の糧となった。

官費留学生として 1880年2月～1883年5月

イギリス留学での学び

キュービット建設会社 王立芸術院
バージェス事務所 ヨーロッパグランドツアー
ロンドン大学



日本銀行設計者として 1888年8月～1889年10月

日本銀行本店の設計に先行して、随行する同郷の岡田時太郎と共に欧米各国の銀行建築を調査した。同時に政府より官庁建築の調査も委嘱された。



辰野家蔵



ベルギー国立銀行（総裁公邸）



イングランド銀行



アンリ・ペイヤール
Henri Beyaert
1823-1894年

ベルギー国立銀行を設計したペイヤールから直接学び、本店設計の原案についてアドバイスももらっている。



ジョン・ソーン
John Soane
1753-1837年

ソーンが手がけたイングランド銀行を度々訪れ学んだ。



日本銀行本店本館の建設

辰野金吾は欧米の銀行建築の視察後、ロンドンで設計の原案をつくり、帰国後約半年で設計を纏めた。建設にあたっては、官庁の営繕組織や旧来の大工組織を使わず、新たに建築学を学んだ技師等で施工体制を整えた。

着工：1890(明治23)年 竣工：1896(明治29)年

構造：石積・煉瓦造、三階建地下一階 延床面積：約11,400㎡

本店建築工事監督：辰野金吾

工事主任：岡田時太郎、製図主任：葛西萬司、建築主管：安田善次郎

施工：分割請負 総工費：約120万円

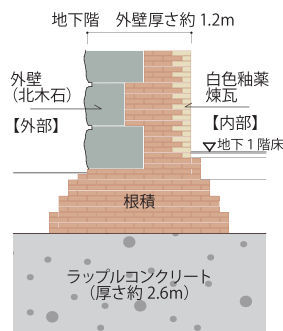
国指定重要文化財(1974年)



1891年

基礎工事が完了し、地下階の煉瓦の根積工事に着手した時の様子。

基盤のコンクリート



厚さ約2.6mのラッパルコンクリートを基盤とし、その上に外壁の石および煉瓦を地下階から3階まで組積している。



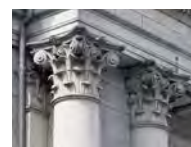
1895年

ドーム屋根が完成し、外壁頂部を飾るバラストレード等の銅板工事を施工している。

「日本銀行新築場治革図」より
日本銀行アーカイブ蔵

本館外壁の石積

外観は洋風石積建築としており、全体の装飾石と1階石積に北木石（花崗岩）、2・3階石積に白丁場石（安山岩）が用いられている。古典様式の外観は正面・中庭・西側に2・3階を貫くコリント式の双柱の大オーダーや採光の窓がついたドームがみられる。



コリント式柱頭



2階・3階外壁石
白丁場石
(神奈川県湯河原産安山岩)

1階外壁石および
1階～3階窓枠等装飾石
北木石
(岡山県北木島産花崗岩)